

令和5年度 第9回臨時部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和6年2月13日（火） 9時30分から10時30分まで

開催場所：第2委員会室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、林企画部長、小倉リニア推進部長、牧島リニア駅周辺整備担当参事、橋本市民協働環境部長、田中ゼロカーボンシティ担当参事、林健康福祉部長、高山こども・子育て担当参事、清水産業経済部長、今産業経済部参事、井田建設部長、佐藤建設部参事、岡本危機管理部長、佐々木上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、秦野教育次長、佐々木財政課長、小室秘書課長、澤柳企画課

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- 皆さんの協力により、来年度当初予算編成ができた。他部局も含めて改めて確認していただきたい。
- 予算規模が過去最大となったと同時に、一般財源の不足分もおそらく過去最大で、基金を充てた。総務部財政課には大変苦勞をかけたが、山積する課題に対してどういう手を打つかを各部局がしっかり考えていただき、積極的でいろいろなところに目配りの出来た予算だと思う。
- 財政事情としては非常に苦しいことにもなっている。令和6年度においては、財政支出を抑制しながら、より効率的に同じ効果を上げられるかを考えていただくことも必要になってくる。
- 市民の皆さんにどれだけ伝わるかがとても大事だと改めて思っている。今年度策定した福祉分野の4つの計画に対する社会福祉審議会の答申すべてにおいて、「市民の皆さんに内容を理解してもらい、行動を起こしていただく、意識を持っていただくことが大事だ」とする付帯意見をいただいた。また、キャリア教育推進フォーラムでは、パネリストの高校生から、いろんな情報が伝わっておらず知らないことばかりだったという意見があった。会場からの意見では、中学生や高校生たちのやりたいことをもっと市が応援すべきだという意見が出た。このことは既に市民協働環境部のムトス若者応援事業で取り組んでいることではあるが、知られていない。知られていなければならないのと同じだということにもなりかねない。
- いろいろな事業を予算化した。事業の対象になる方はもちろんのこと、広くいろいろな方々に事業の存在を知ってもらい、活用してもらえよう、PRも改めて各部局で取り組んでいただきたい。

＜副市長＞

- 2月14日には、広域連合議会の第1回定例会が開会となる。広域連合では、旧地場産業振興センターの改修、桐林クリーンセンターの解体など、節目となる年を迎えることになる。新しい基本構想を検討していく年にもなる。飯田市がしっかりと関わらなければいけない年であるため、改めて皆さんには相談をさせていただくが、よろしく願いたい。

＜教育長＞

- 教育関係の予算は非常に膨らんでいる。新しい課題や以前からの課題が大きくなってきているなかで、どのように効率的に効果を上げていくかを考えなければいけない。そのためには、市民のボランティアの皆さん方に協力いただくことの必要性が増している。学校運営協議会やコミュニティスクールを活用していくことが大事である。
- 部活動の地域移行について、保護者の皆さんに伝わりやすく、今後どうなるのかについてよく問合せをいただく。いろいろな場所や場面で説明したり、コーディネーターが学校に行って説明しているが、どう伝えるかはとても難しい課題だと感じている。繰り返し、いろいろな場面での説明を考えていかなければいけない。

2 報告事項

(1) 令和4年度飯田市財務諸表の公表について

◇趣旨

- 令和4年度飯田市財務諸表の公表について報告する。

(2) 令和6年度当初予算発表資料について

◇趣旨

- ・令和5年度一般会計補正予算第9号(案)について報告する。

◇意見

(市長)

- ・積極的に要求をしていただいた結果として、査定の中で減額や先送りしたものもあるが、どの事業も非常に大事な事業で、予算規模が最大になった。来年度以降も続けていける規模の予算ではないため、執行には留意をいただき、より少ない予算で同じ成果を上げるにはどうしたらよいかの検討をしていただきたい。
- ・予算発表に向けて市民の皆さん、特に中学生高校生などの提案を受けて実現した事業をピックアップしていただきたい。例えば、「うごくる」については、高校生からPR隊や環境文化都市をもっと知るような会議などの提案をいただいたが、それが実現されているとすれば、提案によって実現できたことになる。そういった市民の提案により実現している事業は、積極的にPRした方が良い。当初予算発表資料の中で表現できるものはもちろん表現した方が良いが、資料そのものでなくても、別紙で配ることができるような内容であれば準備をしたいと思う。各部局で市民の皆さんとのやり取りの中で実現した事業があれば確認していただきたい。

(副市長)

- ・投資的経費は104億円、前年比プラス32億円という状況である。一方、繰越予算が何十億となっている。ほとんど普通建設費であり、150億円近くなり、災害復旧も含めての事業をやることになる。優先度が高くやらなければいけないものや、普通建設がどれだけ資産になるかを考えたときに、年間で出来る事業量を超えているのではないかと心配になっている。毎年繰越予算が何十億という状況が続いている。執行段階でしっかり考えないと、予算化したけど執行できませんではいけない。しっかりと現場管理をしていく必要があると感じる。良い予算が出来たが、その執行と来年度以降の財政見通しをどう整理するかは、議論をしなければいけない。

(会計管理者)

- ・療養中の職員や復帰プログラム中の職員が多い状況を考えたときに、すごく良い予算はできたが、職員に負担がかかり、また調子を崩してしまう職員が出ないか心配である。

(市長)

- ・今回の予算にも、企業の皆さんに、働き方を多様化することや男性の育休を推進することの予算がある。事業所としての飯田市役所の育休取得率などがどうかは、非常に大事なところ。事業所としての飯田市役所の取組も、しっかりできるように準備する必要がある。

(企画部長)

- ・予算が出来て終わりではなく、執行していく、対応していくことがとても重要。年度途中でも様々な補助金や企業版ふるさと納税の活用等いろいろな歳入の手段があるため、歳入確保という面においても検討していく必要がある。

(3) 2023年中の毎月人口異動調査に基づく当市の人口動態について

◇趣旨

- ・2023年中の毎月人口異動調査に基づく当市の人口動態について報告する。

3 閉会